



図書館報 みかづら

和歌山県立医科大学図書館三葛館



目次

新しい図書館の役割-----	1	図書館サポーターズクラブ“Lapo”活動報告 -----	6
そうだ 図書館、行こう -----	3	MIKAZURA NOW! -----	6
本に親しむ-----	4	三葛館リニューアル！ -----	7
続く絵本の魅力-----	4	平成24年度三葛館活動記録 -----	8
思い出の本との再会-----	5	編集後記-----	8

新しい図書館の役割

医学部 教養・医学教育大講座（化学） 教授 岩橋 秀夫

講義に必要なことがらを調べたいとき、よく図書館三葛館にお世話になっています。図書館三葛館には、たくさんの単行本がそろっていて、知識の整理には大変便利です。化学に関する本もけっこうたくさんあり、化学の授業を担当している私にとって、化学に関する知識を広く総合的に得ることができる図書館三葛館はありがたい存在です。勉強したいとき、図書館は場所も提供してくれています。試験の時期には多くの学生が図書館を利用しているようです。

研究活動にも図書館には、お世話になっています。世界中で多くの研究者がそれぞれの分野で研究を行っています。全く知らない多くの人が自分と同じ分野の研究を行っています。研究成果は一般に学術論文としてそれぞれの研究分野のジャーナルに投稿され、その内容が新しいことであれば、掲載されることとなります。このような積み重ねがそれぞれの学問分野を発展させてゆくこととなります。すでに明らかになったことがらを研究してもほとんど意味のないことですので、世界中の研究者がどのような研究成果を得ているかを知ることは研究を進めて行くうえで必須です。こんな時、図書館のウェブサイトにアクセスし、学内 LAN で検索システム（Medline 等）を利用させていただきます。検索は瞬時に

完了し、必要な文献がリストアップされます。ケミカルアブストラクトやカレントコンテンツなどの印刷物に目を通していた昔と比べて、便利になりました。必要な文献が学内にあるときは、それをコピーして研究を進めることができます。また、自由に文献をダウンロードできるジャーナルもあり便利です。先行研究の検索に費やす時間を減らすことができ、実験等に費やす時間を増やすことができます。図書館のウェブサイトから学内 LAN で利用できる文献検索システム（Medline 等）は研究をすすめる上で必須になってきています。

目的の文献が掲載されているジャーナルが学内にそろっていたり、自由に文献をダウンロードできたりするジャーナルであれば、それにこしたことはないのですが、そのようなジャーナルとは限りません。学内にすべての学術雑誌を揃えるには莫大な予算が必要で、そのようなことは不可能です。仮に予算があったとしてもすべてのジャーナルを収納するには莫大なスペースが必要です。必要な文献が学内にない時も、図書館にお世話になっています。図書館のシステム上で文献複写をお願いすることになります。他の施設に所蔵されているジャーナルからコピーをとり、本学に送ってもらうシステムです。このお願いも学内 LAN を通しておこなうことができ、自分の部屋にいて全てが済みます。非常に便利です。数日すれば文献が手元に届き、研究をスムーズに進めることができます。そのジャーナルの文献が自由にダウンロードできることを知らずに、文献複写をお願いしても、図書館の方がメールで知らせていただけます。ありがたいです。5年ほど前に、教養・医学教育大講座は、紀三井寺キャンパスから三葛キャンパスに移転してきました。私の研究に関連するジャーナルがほとんど紀三井寺館に置かれていて、紀三井寺館まで行かなければならないかと、不安でしたが、まったく問題がありませんでした。

多くの単行本やジャーナルをそろえ、それらに目を通す場所を提供する施設だけに止まらず、図書館は総合情報センターとしての役割が増してくるのではないかと考えています。



電子ブックのご案内

平成 25 年度より、参考図書や洋書を中心に、電子ブックを購入しています。

本学で購入した電子ブックは、和歌山県立医科大学 OPAC（蔵書検索）で「電子ブック」と入力して検索することができ、学内 LAN に接続されたどの端末からでも利用可能です。図書館三葛館ウェブサイトの「電子ブック」から、提供元毎に一覧で確認し、アクセスすることも可能です。

2014 年 3 月時点で以下の種類の電子ブックが利用でき、さらにタイトルを増やしていく予定です。

- ★ Maruzen eBook Library : 丸善株式会社による日本語電子ブック配信サイト
- ★ Books@Ovid : Ovid 社が提供する医学系電子ブック配信サイト
- ★ Wiley Online Library : Wiley 社が提供する電子ブック・電子ジャーナル配信サイト

三葛館電子ブック案内サイト : <http://opac.wakayama-med.ac.jp/mikazura/Ebook/index.htm>

そうだ 図書館、行こう

保健看護学部 教授 西村 賀子

「そうだ 京都、行こう」。あ、これ、どっかの駅（か新幹線）で見たことある、という人もきっと多いだろう。某鉄道会社のこの観光キャンペーンが始まったのは1993年。平安建都1200年事業の一環としてスタートした。今年は20周年、このキャッチコピーもすっかり定着した。

それにあやかって「そうだ 図書館、行こう」とつぶやいてみると、図書館を訪れるメリットが次々に浮かんできた。図書館は、わくわくする魔法の場所だ。まずは調べ物があつて行く。昔と違って今はパソコンで本や論文を瞬時に検索できるし、お目当ての本が三葛館にないときは他大学から借りてもらえる。本学にない雑誌論文でも、所蔵している他大学で必要な箇所だけコピーして送ってもらえる。ほんの2、3日で届く。なんて便利なのだろうと、いつも感動する。本当にありがたい。

わからなかったことをいろいろ調べながら解きほぐしていく快感。調べれば調べるほど、次から次へと疑問も湧く。でも、それがまたおもしろい。知的成長の上昇スパイラルの場、それが図書館だ。図書館に通えば、お勉強も苦にならない！？（個人の感想です。効果を確約するものではありません）。今日こそは勉強しようと思いついたとき、逆に、なんとなく勉強したくないとき、どちらの場合も「そうだ 図書館、行こう」と思い立ち、足を向ければ、日がとっぷり暮れた帰途はハッピーな気分になっている。

図書館に行くと、必要な資料の入手だけで終わることはまれ。京の町を気ままに散策するみたいに書架のあいだを歩き回り、並んでいる書物の背を眺め、おやっ、こんなものもあるのだと感心したり、面白そうな本や雑誌をばらばらめくったりしているうちに、またたくまに時が経つ。出入り口の「展示図書コーナー」でも、つい目が留まる。気がつくと何冊も本を借りて、カバンが重い。早く読みたいと、気が急ぐが、読む時間をどうやってひねり出そう……。

図書館通いの醍醐味は思いがけない書物とのこのような出会いにある。想定外の知的な刺激は、既成観念に凝り固まった頭と常識でがんじがらめの心をほぐし、小さな殻にこもっていた自分をぐっとワイドに広げてくれる。私たちには無意識的なアンテナがつねに張り巡らされていて、書架のあいだをうろついているうちに、その時々で最も必要な本や役に立つ書物が、まるで偶然であるかのように、不可視のアンテナにすっと引っ掛かるようにできているのだ。ほっこりできる本、力と勇気が湧く本、泣ける本 etc.……。勉強と直接関係のない本こそたっぷり堪能し、心と感性をキュキュッと磨いてほしい。三葛館に足繁く通えば、特製しおりやオリジナルポストカードももらえるし、卒業直前に貸出冊数上位者として表彰される可能性もある！おお、なんと晴れがましきことよ！

鉄道会社の2003年夏のキャンペーンのコピーは「過ごす場所を選ぶだけで、人はさうとう幸せになれるもんだ」だった。休講のとき、講義の合間、あるいは放課後、「そうだ 図書館、行こう」という思いつきを即実行に移せば、間違いなくさうとう幸せになれるはずだ。図書館のIDカードが見つからなくても大丈夫、入り口でブザーを押そう。わからないことは司書さんに気軽に聞こう。親切に教えてもらえる。

「そうだ 図書館、行こう」、そう思った数だけ、ハピネスがあなたを訪れる。

本に親しむ

助産学専攻科 教授 三 島 みどり

わたしたちが看護職業人として認識しておかなければならないことは、自身があまり経験したことのないさまざまな病気の状態にある患者さんに対してケアをするということ、また、人はとても狭い自分という枠のなかでのみ生きている、ということかと思えます。

とくに看護をこれから学ぼうとしている人たちは、そのほとんどが年齢的に若く生活習慣病の経験もない、ましてや重大な病気を宣告されたこともなく死を近くに感じたこともない。入院の経験もほとんど無い。肉体は若く、明晰で、脳のシナプスがなかなか繋がらないなどという状態は想像に難いことと思えます。

また、人は、その年齢にふさわしい考え方を、ということが言われています。その年齢にふさわしい考え方ということは、自分より高年にある人の気持ちのどれほどがわかるのか、ましてや病気の患者さんの気持ちのどれほどがわかるのか、ということになります。このとき、自分に足りない体験（擬似）を、考え方を、教えてくれるものひとつが、「本」ということになると思えます。

本を読んでいると、その本がほんとうにいろいろなことを教えてくれます。どの本に書いてあったのか忘れてしまいましたが、“本を書いた人がすべて人生の先生のようなものである”ということ、まさに体感できると思えます。

講義で医学・看護学を軸にしてそれらをより深く理解するために、また、人が生きているなかで関わっている自然、社会、文化などの周辺（学問）からの人間理解を深めるために、多くの「本」と親しんでいけば、きっと看護職を続けるうえでの自身の支えになってくれることと思えます。

社会で生きていくときには辛いこと、苦しいことが多々ありますが、その時こそ本に傾倒して心を自由に羽ばたかせて（遊ばせて）みてはいかがでしょうか。

三葛館、紀三井寺館、そしてわりと近くに市民図書館、県立図書館もありますよね。ぜひいろんな本と親しんでみてください。

続く絵本の魅力

保健看護学部 助教 谷 野 多見子

本とはじめて出会ったのはいつですか。ほとんどの方ははじめての本は絵本ではないでしょうか。保健師として子どもにかかわる家庭訪問や健診、親子教室では、絵本の読み聞かせや絵本の紹介をしてきました。絵本には子どもはもちろん、赤ちゃんも惹きつける魅力があります。作家のすばらしい絵とわかりやすい言葉で、子どもの想像力を膨らませ、知識と知恵が自然な形で育まれていきます。テレビや写真などの映像や画像にはない色彩が作家の個性であり、未知なる世界の興味を湧きたて、現実の世界

との統合をいざないます。赤ちゃんが快いと感じるのは、お母さんの腕に抱えられて見つめられ、優しく微笑みかけられ、語りかけられるときです。読み聞かせをすることでそれらが何度もくり返され、赤ちゃんの方から見つめかえし、微笑み、語りかけてきます。そして、視線をあわせ、微笑みかけられることや語りかけられることを楽しむようになり、発達が促されていきます。本を仲立ちにして、親子が共に考え、感動を分かちあう時間を大切にしてほしいと願っています。

先日、友人の出産祝いに絵本を買いました。本を選ぶ傍らで高校生の娘が「この絵本大好きだった」「これは最後にみんな集まるよ」と楽しげにしています。覚えていることに少し感動！なぜならそれは、娘が4才のころ、引越しの機会に米国の知り合いの方に譲った絵本だったからです。10年以上前に娘と共に分かちあった感動がよみがえったひとときでした。

三葛館にも絵本の蔵書があります。是非手に取って童心に戻ってみませんか。そして次の世代に絵本の素晴らしさを伝えて頂ければと思います。きっと図書館が好きになりますよ。

思い出の本との再会

保健看護学部 助教 山本美緒

読書は、「こころの旅」と例えられることもあるように、本を読んでいるだけで、いろいろな出会いや経験をさせてくれます。見たこと、聞いたことのないことを知り、知的探究心が刺激されます。また、本との対話を通じて、自分自身の思考過程がみえることもあります。

私が読書の面白さに目覚めたのは、少し大人になってからですが、一番集中して本を読める時間は、実家に帰省する移動中や旅の途中かもしれません。新幹線の駅や空港では、必ず書店を探してしまいます。最近、『レインツリーの国』（有川浩著 新潮社 2006）という本を読みました。ストーリーは恋愛小説でしたが、冒頭で、主人公の本にまつわるエピソードが出てきます。中学生の頃には読んだ本の感想を言い合える友人がいなかった主人公が、ある時、同じ本の感想を書いている人とインターネットを通じて出会います。昔の自分が感じたことや思いをぶつけ合ったところ、大人になった彼らとその本に対する意見や感想が変化していることに気付くという場面でした。私自身も、高校生の時に読んだ本を大人になってから再び読む機会がありました。『無菌病室の人びと』（赤塚祝子著 集英社 1993）という、白血病の方が登場する本でしたが、初めて読んだときとは違う目線で物語を捉え、主人公の気持ちをより深く感じられたという経験があります。

医療職を目指すみなさんは、講義の中で紹介された本や闘病記など、いくつか読む機会があるのではないのでしょうか。きっと、みなさんも、時を経て、学生時代に読んだ本を思い出すことや、再び出会う日が来るかもしれません。その時は、学生時代の体験、臨床や社会人としての経験を通じ、たくさんの人との出会いの中で、最初に湧き出した感情や思いとは一味違った自分や自己の成長を感じることもあるでしょう。学生生活の中で、是非、図書館での素敵な出会いも見つけてみてください。

図書館サポーターズクラブ“Lapo”平成25年度活動報告

こんにちは！図書館サポーターズクラブ“Lapo（らぼ）”です。

私達 Lapo は、より多くの学生のみなさんに図書館を利用していただき、充実した学生生活をサポートすることを目標に、2011年の結成以来、様々な活動に取り組んできました。

2013年度の活動としては、4月に新入生歓迎会を開催し、8月には三葛館の蔵書点検のお手伝いをしました。他には、学生に実施したアンケートによる「実習で役立つ本」の展示をしました。また、11月の紀葉祭では、ヘルシーな焼き菓子販売する「Lapo Café」を出店し、12月には、アロマアドバイザー資格を持っている Lapo メンバーが講師となって、アロマやハーブについての講習会「Lapo Aroma Café」を開催するなど、「図書館」という枠から飛び出して活動しました。さらに、3月には、紀北分院で開催されるイベント（健康フェスタ）にも「Lapo Café」の出店を予定しています。

2013年度は、蔵書点検や本の展示などの図書館を中心とした活動に加え、館外での活動にも挑戦することができました。これからも、様々な活動を通じて、より多くの学生のみなさんが図書館を活用できる機会を作っていきたいと思っております。是非、図書館にお立ち寄りください。

（保健看護学部 2年 田中利佳）

平成25年度 展示図書テーマ一覧

- 第39回「大学生生活を図書館からはじめよう」
- 第40回「Be positive！」
- 第41回「あなたを守る20冊」
- 第42回「はじめの一歩の本」
- 第43回「コミュニケーション Lesson」
- 第44回「からだのチカラ」
- 第45回「Sweets Paradise♡」
- 第46回「アロマハーブのある暮らし」
- 第47回「おもてなしのココロ。」
- 第48回「Brush up English！」

平成25年度保健看護学部卒業生の表彰を行いました！

平成26年2月7日に、在学中貸出冊数上位者の表彰を行いました。卒業生1人あたりの平均貸出冊数は187冊で、第1位の方の貸出冊数は614冊でした。今年も平均貸出冊数は前年度を超え、上位に入るのは年々難しくなっていますが、それだけに挑戦のしがいがあります。是非みなさんもチャレンジしてみてください。



MIKAZURA

NOW!

平成24年度 利用統計

年間開館日	278日
入館者数	35,133人
(1日平均)	126人
貸出人数	6,796人
図書貸出冊数	18,160冊
視聴覚資料貸出件数	191点
相互利用依頼件数	635件
相互利用受付件数	1,234件
学外利用者数	709人

三葛館の蔵書2012

蔵書冊数	53,592冊
うち洋書	8,062冊
所蔵雑誌種数	900種
うち外国語	145種
年間受入図書冊数	2,344冊
うち洋書	173冊
年間受入雑誌種数	453種
うち外国語	105種
	(2013/3/31現在)

三葛館リニューアル！

平成25年8月5日(月)～9日(土)にかけて、三葛館ではリニューアル工事を行いました。この工事は、既存の家具をコンパクトなものに見直すことで座席数を増設し、事務室内に新たに書庫を設置するという内容でした。

具体的には、視聴覚席とパソコン検索席の机と椅子をコンパクトなものに変更しました。グループ学習室は、置き方の組み合わせが自由な可動式の机と回転椅子に新調しました。さらに、1人用のキャレルデスクをコンパクトなものに変えて置き方を工夫することでスペースを確保し、明るい色調にして圧迫感を抑えました。そして、貸出返却手続きや相談を行うカウンターは、形状を変えて少し広げ、シックな色合いにすることで落ち着きを持たせました。結果的に、座席は50席から59席に増え、事務室内には約3千冊の書庫を設置することができました。

このリニューアルによって、少しは学習環境が改善され、みなさまの学習、研究のお役にたてれば幸いです。これまで以上に三葛館をどうぞご活用ください。



和歌山県立医科大学図書館三葛館 Facebook ページ



三葛館 facebook ページでは、「今週の新着図書ピックアップ!」「三葛キャンパス便り」などをはじめ、展示図書情報、イベント開催情報などの最新の細かな情報をできるだけ画像とともに毎日発信しています。facebook アカウントをお持ちでない方もご覧いただけますので、ぜひチェックしてください。アカウントをお持ちの方は、三葛館 facebook ページに「いいね!」をしてくださると、あなたの facebook ニュースフィードに三葛館情報が配信されます。左記 QR コードからアクセスしてください!

三葛館 facebook ページ : <http://www.facebook.com/wmulmikazura>

平成24年度（2012年度）三葛館活動記録

- 4月2日 保健看護学部新規採用教員 図書館オリエンテーション
- 4月6日 第1回保健看護学部図書委員会
- 4月10日 保健看護学研究科 新入生オリエンテーション
助産学専攻科 新入生オリエンテーション
- 4月12日 医学部 新入生オリエンテーション
保健看護学部 新入生オリエンテーション
- 4月18日 助産学専攻科「助産研究」文献検索講義
- 4月21日 日本看護図書館協会 第22回総会（公益社団法人日本看護協会看護研修学校：東京）
- 5月14日 保健看護学研究科「保健看護情報統計学」文献検索講義
- 6月22日 株式会社サンメディア 第8回学術情報ソリューションセミナーin大阪
（ブリーゼタワー：大阪）
- 6月27日 保健看護学部「保健看護研究Ⅰ」 文献検索講義
- 7月23日 附属病院看護部 院内継続教育「看護研究をしようⅠ：文献検索の方法と実際」研修
- 7月24日 株式会社リコー 図書館システムLIMEDIOセミナー（スイスホテル南海大阪）
- 8月6～10日 蔵書点検
- 8月22～24日 国立情報学研究所 目録システム講習会（雑誌コース）（大阪市立大学）
- 8月25～26日 第29回医学情報サービス研究大会築地大会（聖路加看護大学：東京）
- 9月14日 大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）版元提案説明会（関西学院大学：兵庫）
- 9月19～21日 国立情報学研究所 目録システム講習会（図書コース）（神戸大学：兵庫）
- 9月25日 第2回保健看護学部図書委員会
- 10月16日 和歌山県看護教員養成講習会 特別講義：図書管理
- 10月27日 日本看護図書館協会 第7回新人研修会（岐阜県立看護大学）
- 11月7日 第3回保健看護学部図書委員会
- 11月14日 保健看護学部「保健看護英語」 海外文献検索講義
- 11月20～21日 第14回図書館総合展（パシフィコ横浜：神奈川）
- 12月6日 保健看護学研究科「英語文献講読」 海外文献検索講義
- 2月7日 第4回保健看護学部図書委員会

編集後記

平成25年度は、電子ブックの購入、リニューアル工事、紀葉祭へのLapo Café出店、Lapoとの共同企画によるイベント開催など、新たな試み目白押し的一年となりました。

平成26年度には、三葛館の検索用パソコンの運用について制度を整え、蔵書検索や情報検索のシステムもリニューアルを予定しています。みなさまには少々不便もおかけしますが、三葛館の次のステージに向けて、ご協力をお願いいたします。（J.S.）



平成26年3月31日発行
図書館報 みかづら（第17号）
編集・発行 和歌山県立医科大学図書館三葛館
〒641-0011 和歌山市三葛580番地
TEL (073) 447-2300（代表）
(073) 446-6721（三葛館）
FAX (073) 446-6730（三葛館）

<http://opac.wakayama-med.ac.jp/mikazura/>

